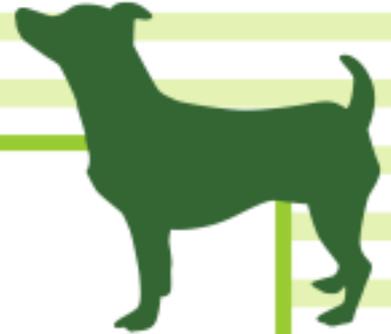


仔犬の飼い方



子犬の成長段階



- 新生子期：生後～2週齢
- 移行期：2～3週齢
- 社会化期：3週～12週齢
 - 様々な経験が必要
 - ト라우マにならないように注意
- 若年期：12週齢～6、8ヶ月位(性成熟期)
- 成熟期：性成熟期～





社会化期

— 犬社会での生き方を学ぶ —



- 3～6（8）週（犬同士の社会化）
 - 他の犬との接し方を、兄弟犬や親犬と遊ぶことによって学ぶ
- 6（8）週～12（14）週（環境に適応）
 - 犬同士の関係に加えて、周りの環境や他の動物との関わり方を学ぶ
 - 咬む力の加減、成犬との関わり方
 - 周りの生活環境への適応
 - ルールの習得





我が家へ子犬がやってきました！



- 約2ヶ月齢（社会化期）

- 人間がルールを教えてあげなければならない
- 人間社会で遭遇する様々な事を体験させてあげなければならない
- この時期の育て方で一生が左右されるといっても過言ではない！

- ワクチンの接種

- 生後3ヶ月までに2～3回接種する
- ワクチン接種後、自由に散歩できる





パピークラス



- ・ 家の中では出来ない経験
 - 同年代の子犬同士での遊び
 - いろいろな人（他の飼い主さん）との触れ合い
 - ・ あらゆる年齢層・老若男女・制服・眼鏡など
 - 知らない場所
 - 車に乗る訓練
 - 騒音





しつけ方法



• ほめて育てる

- 怒らないといけない状況を作らない
 - 咬んで困るものは床に置かない
 - サークル（ケージ）を用意し、その中が安心できる場所にしてあげる
 - サークルは、人の出入りする場所や、テレビの横など人が注目しやすい場所は避けて、静かな場所に置く

• ダメなことをしたときは無視する

- 体罰ではなく、ほとぼりが冷めるまでサークルに入れる
 - 出して欲しいと、鳴いている間は決して相手にしない
 - 鳴き止んでおりこうにしているときに出してあげる

• メリハリを覚えさせる





おもちゃ



・材質

- 犬は口に入れた時や噛んだ時の感触で覚える
- 不適切な素材
 - ・木・布（家具やスリッパ・クッションなどと同じ）
- 適切な素材
 - ・ゴムなど、住居や生活用品の素材ではないもの
 - ・コング：中にフードやおやつをいれるゴム製のおもちゃ

・遊び方

- 与えっぱなしにしない
 - ・時間を決めて、飼い主さんがおもちゃをあげたり、取りあげたりする
 - ・引っ張り合いっこはしない
 - ・一人でおもちゃで遊んでいるときは声をかけて褒めてあげる





しつけ方法



- 甘咬み
 - 自然界では遊んでいる途中にきつく咬むと、咬まれた子は遊びをやめて離れてしまう
 - 咬んだ方は、きつく咬むと遊んでももらえないことを学ぶ
- 甘咬みさせないように、手で遊ばない
- 歯を手に当てさせない
- 咬んでも良いおもちゃで咬みたい欲求を満たしてあげる
 - 興奮すると何も聞かなくなるので、サークルへ入れて落ち着くまで相手にしない





しつけ方法



- メリハリを教える
 - サークルに入って頭を冷やすことを覚えないと、将来凶暴（わがまま）な子になる可能性がある
- 何でもかんでも犬の要求に答えない
 - 要求が通るまで鳴き続ける
 - 自分が一番偉いと勘違いする
 - サークルから出すときは静かにしているときだけ
 - ご飯や散歩の時間はきっちり決めずに飼い主さんの都合の良いときにする





しつけ方法



- おすわりや伏せを上手に使う
 - 最初は小さなおやつを使って覚えさせる
 - 一日何十回も練習する
- おすわりなどをしてから遊ぶ
 - 家に帰ってきたとき
 - とびついてくるとき
 - 鳴きやまないとき
 - 「シーッ」などの鳴きやむ号令を決めて、静かになったらおすわりをさせて、出来たら褒めてあげる





若年期～成熟期



- 縄張り意識が出てくる
- 犬同士で好き嫌いが出てくる
- 順位付けが激しくなる
- 発情期に影響されるようになる





縄張り意識



- 自分のテリトリーを守る
 - 散歩中に匂い付けのオシッコをする
 - 家の中でもする
 - 壁・カーテン・靴・カバンなど
 - テリトリーに入ってきた犬や人を攻撃する
 - 窓の外の人や犬に向かって吠える
 - 窓に近づかないようにするしかない





好き嫌い



- 若年期（6ヶ月）頃まではどんな子犬でもほぼ喧嘩をせずに遊べる
- 6ヶ月を過ぎると、好き嫌いがはっきりしてくるので、合わない犬同士だと激しい喧嘩をする
 - 散歩で合わない犬に急に鉢合わせすると、激しい咬み合いになることもある
 - 無用な争いを避けるためになるべく合わない犬と遭遇しない工夫をする





発情期



- 雄犬は想像もつかない行動をすることがある
 - 脱出できないと思われるところからの脱走
 - 凶暴化
 - 散歩中ありえない力で飼い主を振り切る
- 不妊手術
 - 犬の場合、問題行動が完全に治ることはないが、かなり軽減される





不妊手術の利点（オス）



- 統計的に長生きすると言われている
- 攻撃性が減る
- マーキングをしなくなる（回数が減る）
 - マーキングをし始める前（6ヶ月～8ヶ月）で手術をすると効果的
 - 男性ホルモンに左右される病気が減る





不妊手術の利点（メス）



- 統計的に長生きすると言われている
- 発情期の出血がなくなる
- 子宮や卵巣の病気の心配がなくなる
- 1回目の発情前に手術をすると、乳腺腫瘍の発生率がかなり減る





不妊手術の欠点



- 太りやすくなる
- 全身麻酔のリスクがゼロではない
- 費用がかかる
- メスは、性格がきつくなる子もいると言われているが、ほとんどいない

